

百聞は一見に如かず 美浜原発PR館見学と中^{なか}嶋^{じま}哲^{てつ}演^{えん}住^す職^{しやく}(小浜市明通寺)のお話

4月26日(金)、総勢12名で新快速とマイクロバスを利用して、福井への研修旅行を行いました。JRが「春の関西1dayチケット」なるものを発売していたので、エリアで一番遠い敦賀駅まで通常の約半分の電車代(3,500円)で行くことができ、費用を大幅に節約できました。

関西電力美浜原子力PRセンター

ドーム型の映画館のような施設で、スチュワーデス風制服を着た若い女性が、2年前までと同様に(と思う)にこやかに原発について説明してくれました。PR館のすぐそばに海を渡る長い橋があり、その先に美浜原発がありますが、一般人は誰も橋を渡ることはできません。

閑散とした立派な施設をあとに、小浜市の明通寺へ。



奥に見える美浜原発をバックに

新緑の明通寺

広い寺域に新緑の木立、長い石段を登った先に国宝の三重の塔(鎌倉中期)がある明通寺は想像以上に美しい寺でした。最初に本堂(国宝)へ。若い住職が寺の来歴を説明してくれましたが、本尊の前の仕切りは取り払われ、誰でも手で触れることができるほど近くで拝観できます。中嶋哲演住職のお考えでしょう。このような寺は他に見たことがありません。ゆっくり散策する時間がなくて残念でしたが、すぐ住職のお話を伺うことにしました。

中嶋哲演住職の怒り



中嶋哲演住職のお話を聞く

- 若狭の原発群は40年間、関西2府4県へ2兆数千億 kWh を送電してきましたが、「死の灰」(使用済み核燃料)は広島原爆40万発分を生成・累積しています。国内全体では120万発分の「死の灰」を作り出しています。

プルトニウムの半減期は24,000年、限りなく0に近づくためには50万年ほどかかると言われています。プルトニウム1gを粉々にして一粒を肺に吸い込ませると、すべての人が肺ガンにかかるという、そういう猛毒です。

原発は5重の壁に守られ、事故時にも「止める・冷やす・閉じこめる」ので大丈夫、という安全神話がごとく崩壊したのが

福島事故でしたが、原子力村の人たちは「五重の壁の中にはこのような超危険な物を含んでいます」ということをただの一言も言いませんでした。安全神話の神話たるゆえんだったわけです。

現在までに蓄積されている「死の灰」は、暫定的には10万年、厳密に0に近づけるためには100万年の時間が必要だと言われています。私たちから数千世代、2万世代あとの子孫まで「死の灰」を管理しなければなりません、どう管理したらいいのか、最終処分はどうするのか、世界中どこの国にも答えは見つかっていません。こういうものを生み出すということが原発の罪悪の最たるものです。

被曝労働者の累計は50万人を超えました。広島・長崎の原爆被曝者は65万人と言われています。「平和利用」の原発の中で新たな被曝者が作り出されているのです。白血病やガンで亡くなった人たち、子どもたちに遺伝的な影響が出ている人もいます。彼らの存在なくして原発は動いてきませんでした。この人たちはかつての特攻隊員に匹敵すると思っています。

- 福島原発1-4号炉内に、3・11直前まで生成されていた放射能の総量は？そのうち環境に放出された量は？40年間、口が裂けても言ってこなかった人たちですから、事故のあとも分かりやすい

説明はしていませんが、70京ベクレル（京＝兆の万倍）、広島原爆200発相当の量とされています。

- 小浜市は若狭にあって唯一、住民運動の主体的な力によって小浜原発をストップさせてきた地域なのに、15基の原発に取り囲まれてしまっています。実質的な地元住民である小浜市民を排除したまま（大飯原発から半径10キロ以内に住む住民の75%は小浜市民、大飯町民14%、高浜町民11%）、大飯原発の建設は強行され、あろうことか福島事故の後、市長や議長、小浜市の代表的な団体の代表が全員反対したにもかかわらず、大飯原発3、4号機は強行突破されて、昨年7月から再稼働されています。

若狭の原発群が40年間、関西2府4県へ送電してきた2兆5千億KW、1KW当たり10円としても25兆円、20円とすると50兆円のビッグビジネスを原子力村の人たちは若狭を舞台に展開してきたわけです。さすがに超危険な施設を押しつけているという意識はあったんでしょう、福井県に40年間に5,000億円近くの交付金や協力金をとってお金を落としています（100分の1）。

原発が必要で安全であるならば、大都会の海岸に作ればよかったです。なぜ原発と引き換えに麻薬的な巨額のお金が地元にはばまかれたのか、その本当の理由は話されてこなかったのです。（続く）

福井への旅に参加して

- ① 初めて九条の会の研修に参加しました。最初に立ち寄った美浜原発は、美しい入江が延々と続くとても風光明媚な所で感動しました。そんな素敵な海浜に物騒な発電所が厳然と建ち並び、とても異様に思えました。

続いて明通寺の中畷住職の貴重なお話。ご住職は長年にわたり現在もなお平和運動されています。ご住職が警鐘を鳴らしてこられた原発安全神話への根源的な問いかけ、感慨深い想いと同時に、やり場のない深い憤りを感じずにはおられません。累積され続ける死の灰は、被曝者また新たな被曝労働者を生み、未来永劫すべての生命あるものを根絶してしまうのです。これから誕生していくであろう生命、子どもたちの未来を憂いて仕方ありません。（吉岡雅哉 30代男性）

- ② 今までテレビや新聞でしか見たことがなかった原発を初めて実際に見て思ったことは、キレイな山や海がある所には、不釣り合いな建物だと思いました。PR館では疑問に思うことが多く、福島での事故は「地震と津波が原因」としていて腹が立ちました。全く自分たちは悪くない、むしろ被害者だと思っているし、PR館だけあって一番肝心な使用済み核燃料、汚染水などのことは殆ど触れず、安全を押し売りしていると思いました。

次に、小浜市にある明通寺に行き、中畷哲演住職のお話を聞きました。40年以上も原発反対運動をされていて驚きました。正直、私は福島事故以前は、原発について何も知りませんでした。電気は使えて当たり前、電気を作るのに危険なことはないと思っていました。ですが、ご住職のお話を聞き、絶対にこのままではいけないと思いました。食品などからも被曝する可能性もあり、自分だけではなく、子どもや孫にまでも被害が出ると思うと本当に恐ろしいです。死の灰など原発がある限り蓄積される危険なものを、未来に残したくありません。それでも必要で安全なのであれば、原発で発電した電気を使っている大都市に作ればいいと思います。

今回の旅に参加して本当によかったです。もっと原発のことを知り、少しでも行動しないとな～と思いました。（H・E 20代女性）

「憲法9条の会・岩岡」第7回総会のお知らせ

と き：5月18日（土）午後1時30分～2時 その後映画上映

と ころ：岩岡連絡所多目的ホール（小）

映画「日本の青空 I」を再上映します この映画は07年9月1日に上映しましたが、6年前よりも更に憲法は改悪の危険にさらされています。前回見逃した方、ご覧になった方も改めて憲法が作られた時のことを学びましょう。

バザーにご協力下さい 物品を寄付していただける方は、当日1時まで岩岡連絡所多目的ホール（小）に持ってきていただき、ご自分で決めた値段の札のところに置いて下さい。もしくはお知り合いの世話人までお持ち下さい。買っていただける方は、箱にお金を入れてお持ち帰り下さい。売り上げは「憲法9条の会・岩岡」の活動資金にあてさせていただきます。ご了承下さい。

